

よ す か

よすか「寄す処」とは、身や心を寄せて頼りにすること。

もの、こと、つてなどを引き寄せるという意味の言葉です。

人々が信じる見えないチカラは、人々の祈る思いを受け止める。

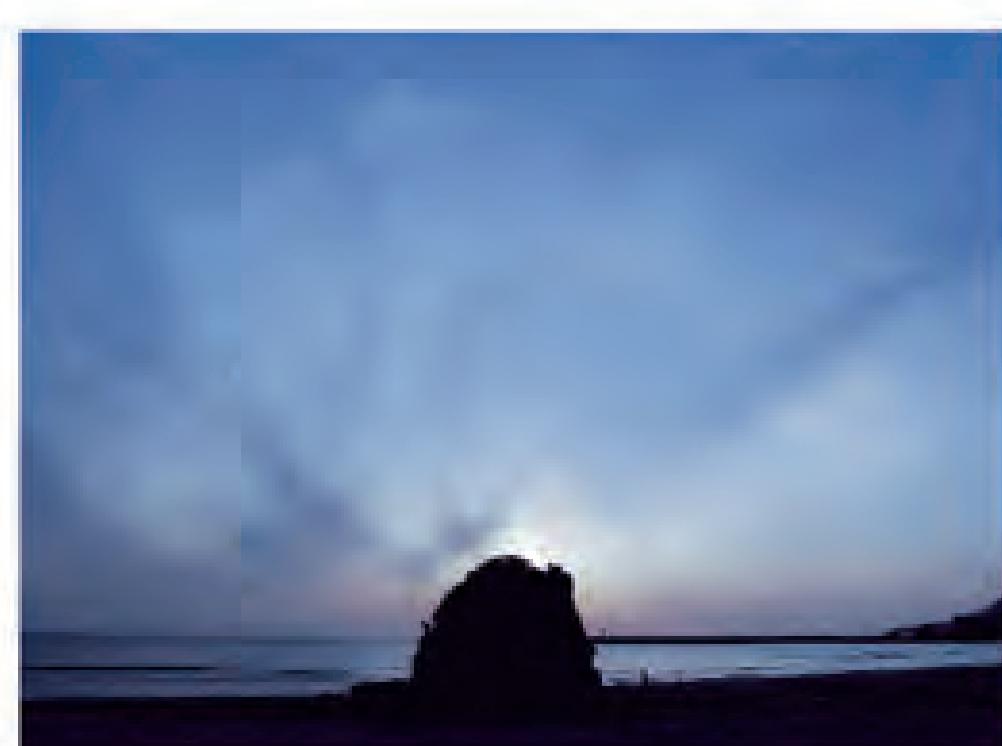
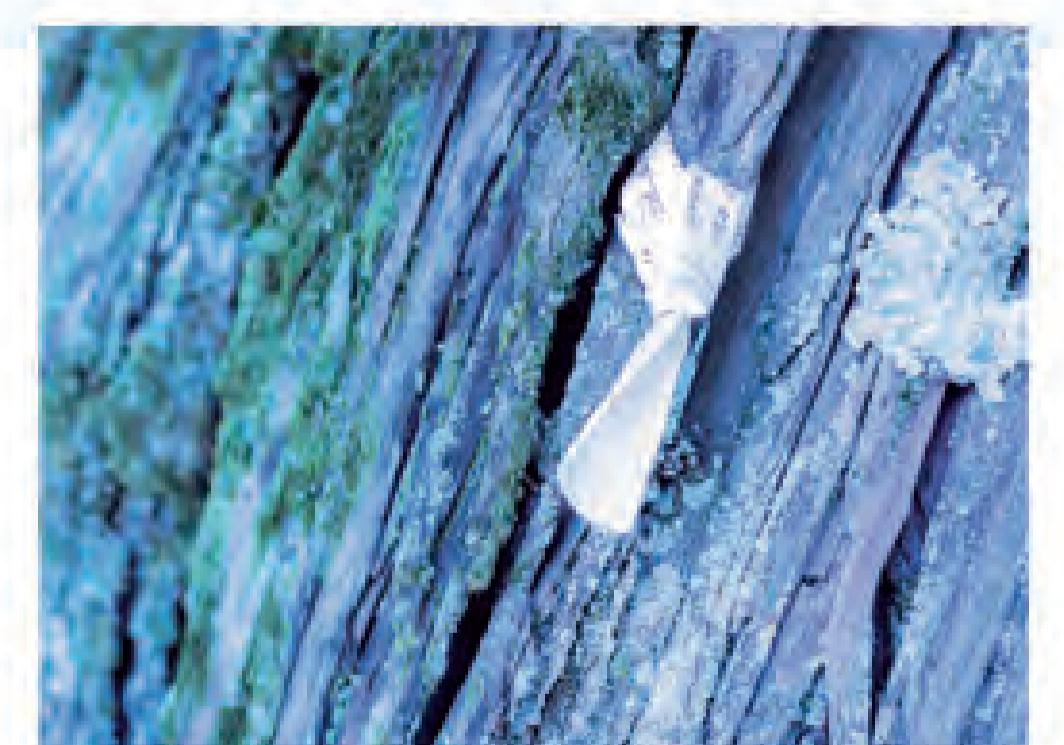
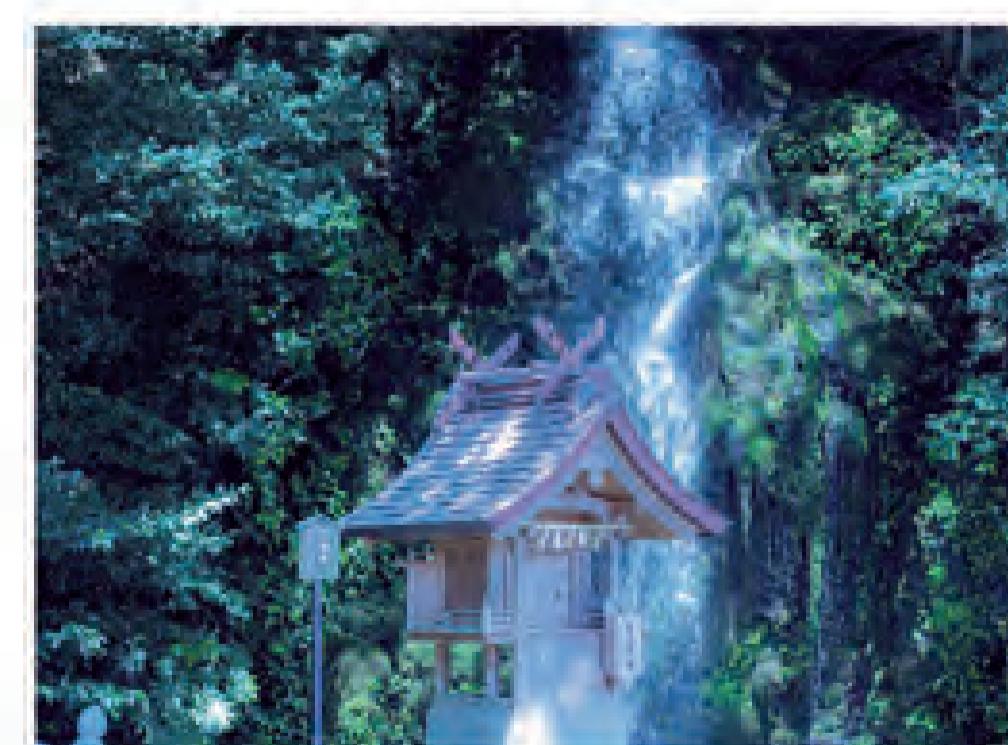
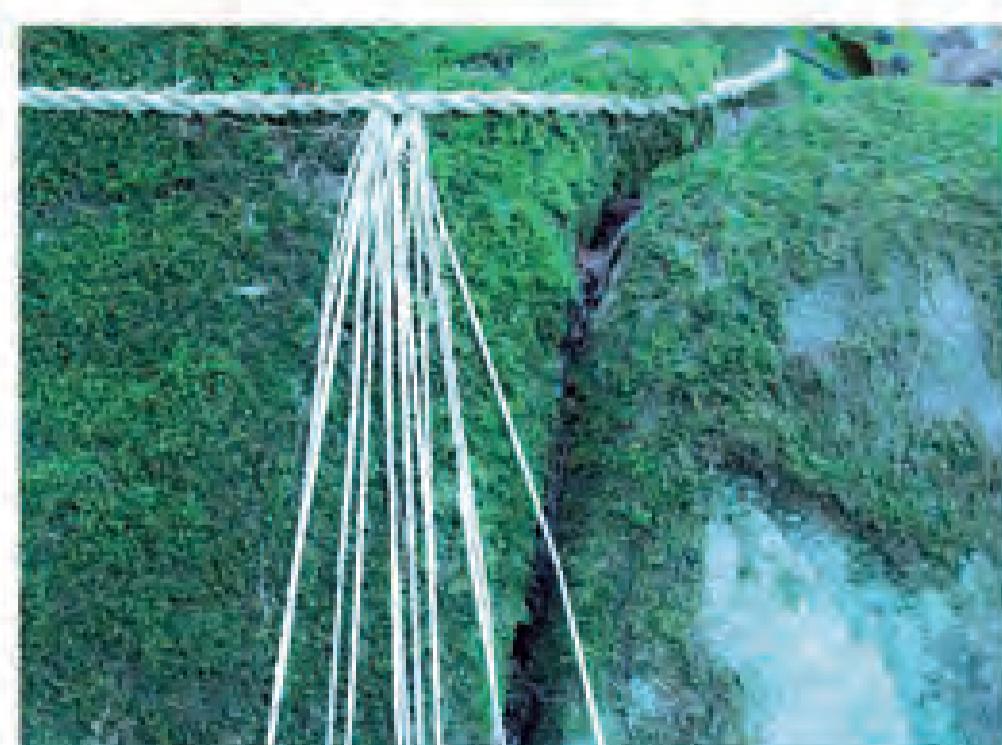
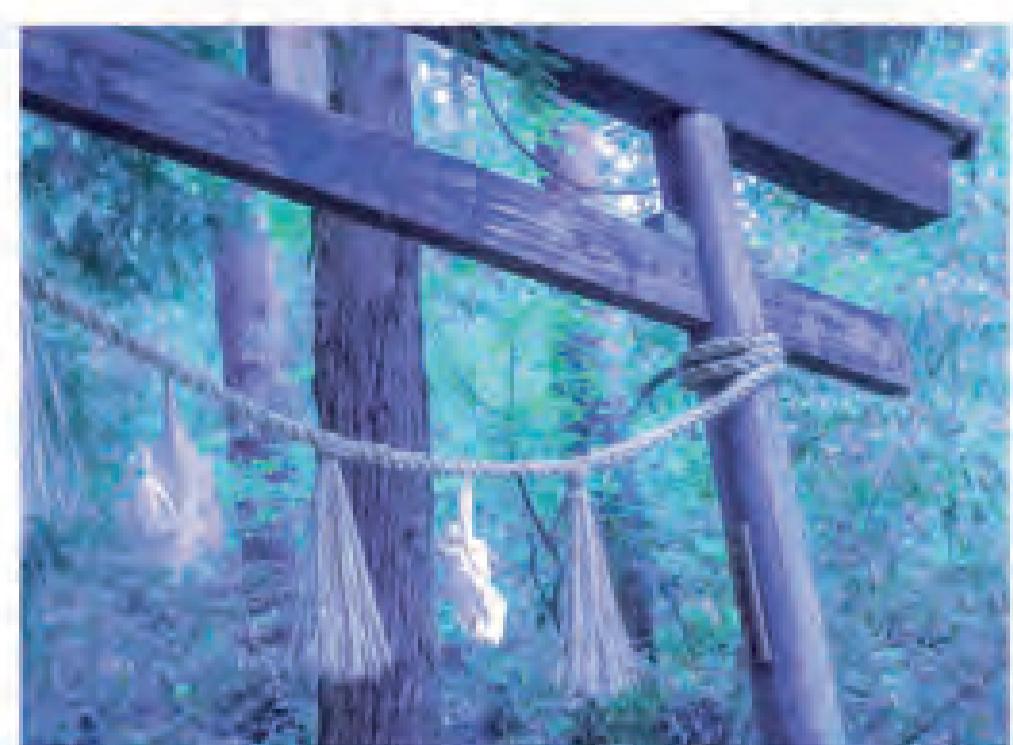
私たちは心の拠り所となるモノをつくり、お届けすることを使命としています。

神々のチカラ溢れる出雲の地からの贈り物。

それは誰かの頼りになり、誰かのゆかりになる。

日々の何気ない暮らしの中でご縁を結んでいく

あなたの「よすか」になれば幸いです。





創業1877年（明治拾年）より続く

「出雲國とヒトを結ぶ」山陰最古の老舗、秀玉堂。

老舗の伝統と進化を模索し、常に新たな挑戦を続けています。

新型コロナウイルスの影響から、不安で先が見えにくい現代。

人々が信じる見えないチカラ。

「出雲國の神々をいつも身近に感じられるモノを届けたい」

そんな思いから新ブランド“よすか”を立ち上げました。

地域に根差した「本質」を新しい価値観で世に送り出す試みです。

よすかのプロダクトを通して、少しでも誰かの拠り所になり、

「幸せのお手伝い」ができれば幸いです。

株式会社 秀玉堂

代表取締役社長 川島 健



「よすかのお社台座」

大きな円と千木をモチーフにした「お社台座」。

お札を納めたり、御朱印帳を飾るの最適な逸品です。

「円」は「ご縁」につながり、あらゆるものとのご縁を象徴する神秘の形。

お社の「千木」をモチーフにしたオリジナルの台座は神聖な空間を生み出し、

納めたものを引き立てます。

様々なモノ・コトとのご縁を繋ぎ、神々とのご縁を結ぶ。

そんな願いが込められた「お社台座」が、神秘的な空間を演出します。



パッケージ



ビームスジャパンコラボ商品も制作



「よすかの火打石」

火打石は、古くは古事記に記されており、

ヤマトタケルノミコトが火打石に助けられたエピソードは有名です。

平安時代には貴重な御神宝とされた火打石ですが、

江戸時代には一般市民にも普及し、火付けの他、厄除け・縁起担ぎとしても

使用されるようになりました。火打ち石で鎌を強く擦る「切り火」は、

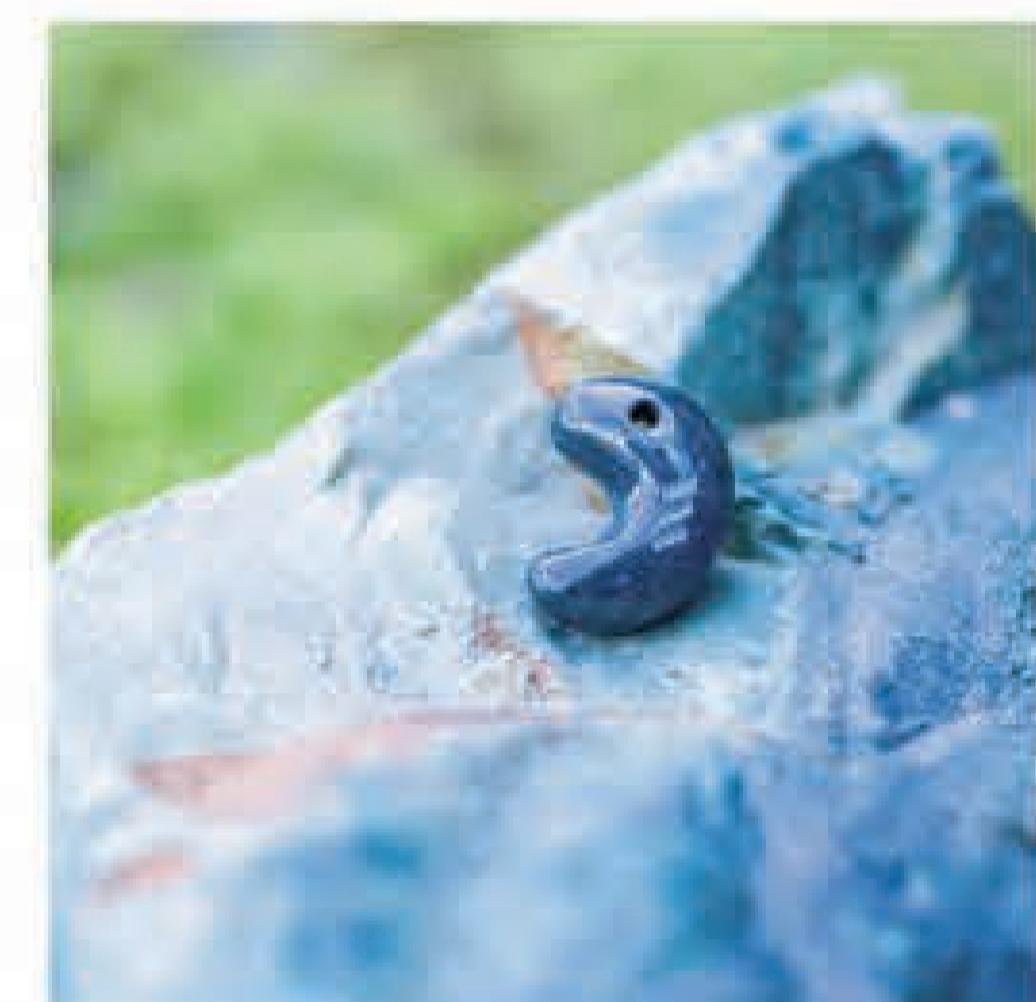
気忙しい現代社会にお勧め。「切り火」で散る火花は清々しさをもたらし、

ご自身や空間・神具等をお浄めすることができるほか、

厄払い・邪気祓い・縁起担ぎなど 幅広いシーンで活用することができます。



パッケージ



「よすかの勾玉」

ロゴを彫り込んだ「出雲石」(碧玉)の勾玉です。

出雲石は現在は採掘が制限され、非常に希少な存在となりましたが、

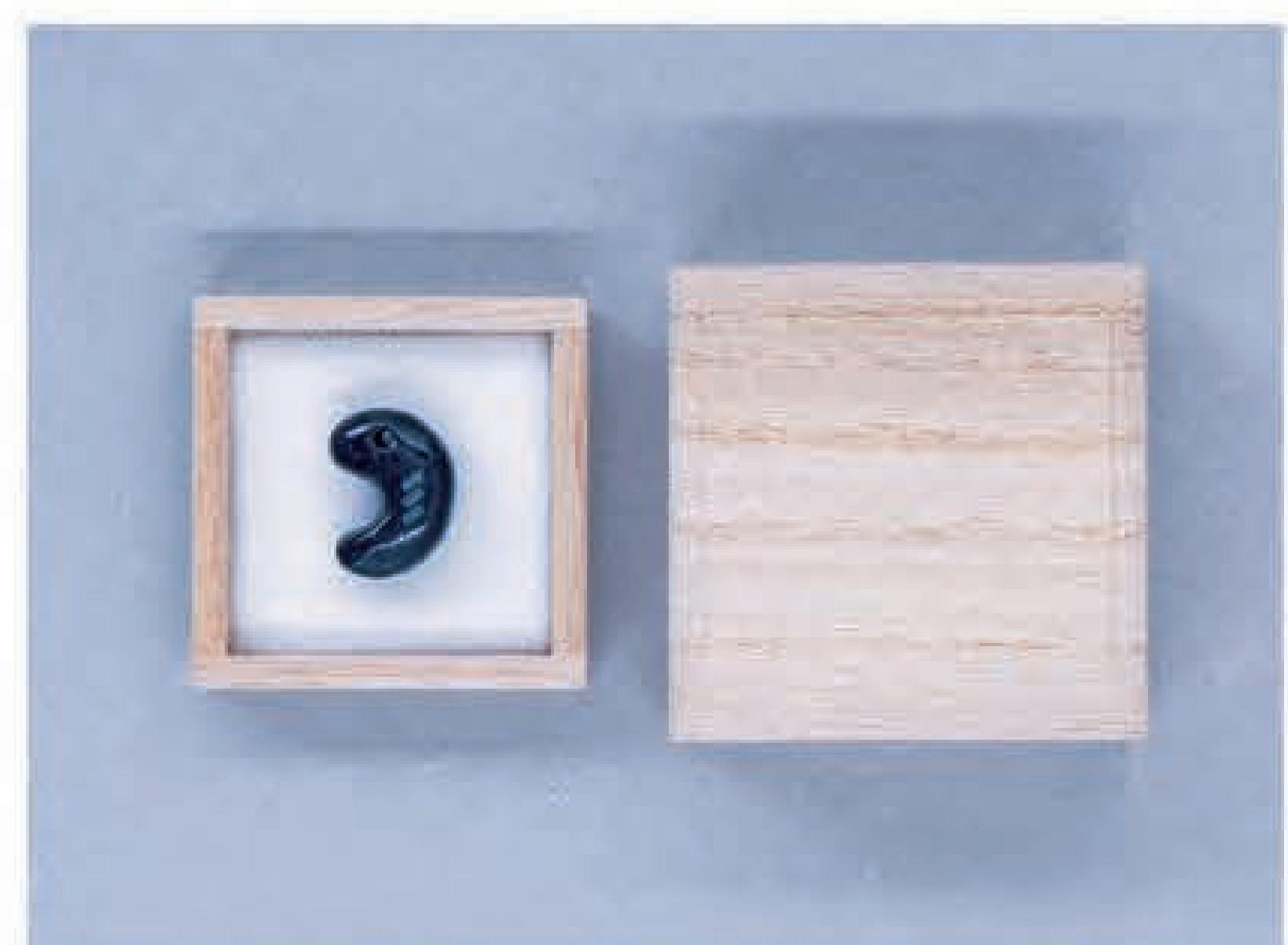
その出雲石を贅沢に使用してオリジナル勾玉を製作しました。

古代の形をイメージし、厚みやカーブ、膨らみ具合など、職人と共に細部にまでこだわったオリジナルフォルム。

全体的にふっくらとした厚みのある形が愛らしい古代型勾玉です。

吸い込まれそうになる独特の深い深碧色は見る人の心をとらえて離さず、

碧玉独特の模様は、まるで深い地層をそのまま切り取ったように見えます。



パッケージ



「よすかの鉢」

神々の御利益を植木鉢にも 一。

島根県の窯元、袖師窯さんのご協力のもと実現した、よすかの鉢。

出雲屈指のパワースポット「稻佐の浜」の砂を配合し、

神々の息吹を感じるような鉢に仕上げました。土も灰も釉薬もすべて島根県産。

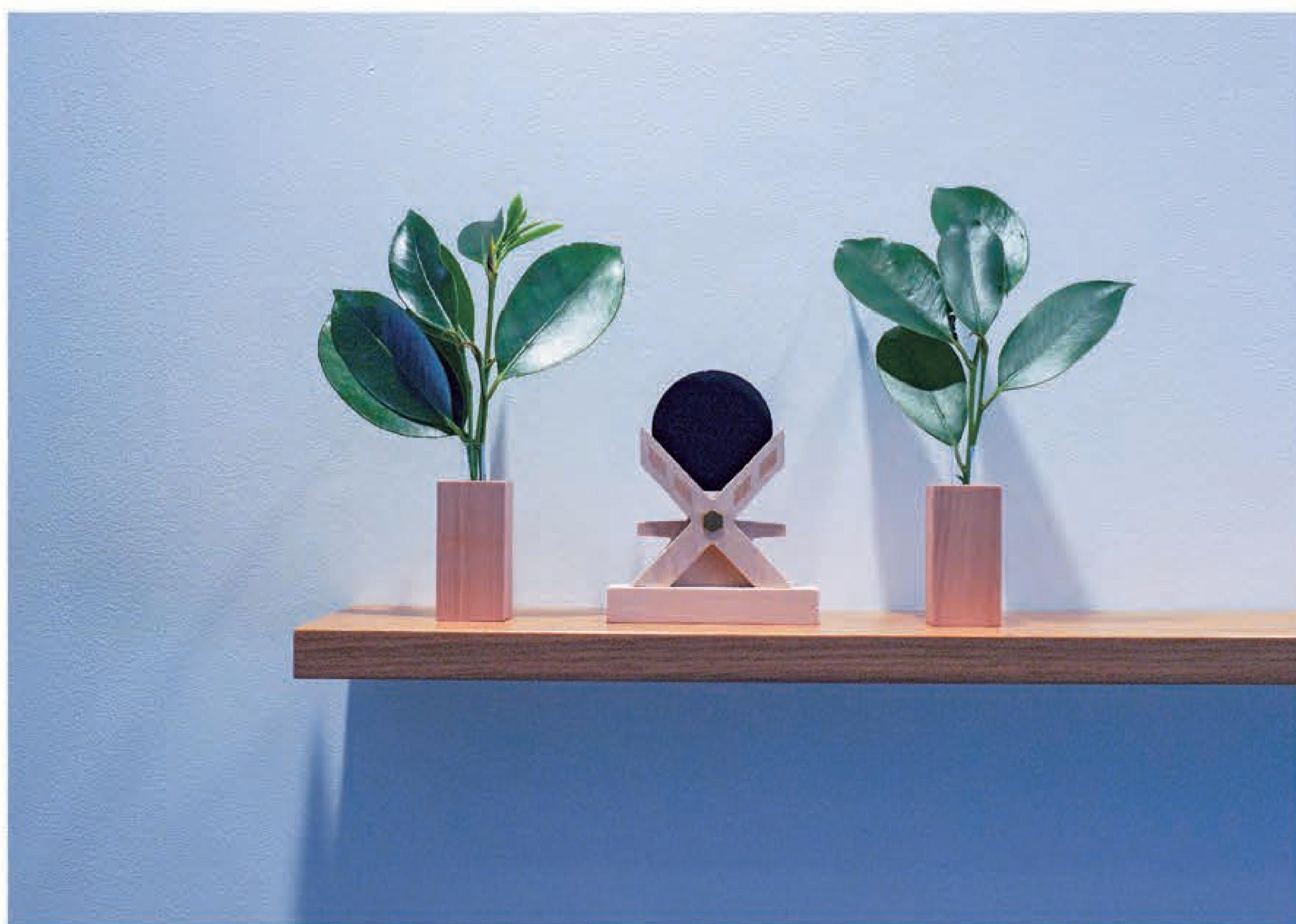
釉薬には地元の鋳石を配合し、深い色あいを実現しました。

ロゴマークのモチーフである「紙垂」型の底穴には、祓い清めの意味を込めています。

重厚感のある色あいが植物等の良さを引き立たせ、

肉厚で安定感のあるフォルムは、あらゆるインテリアに馴染みます。





「よすかの神鏡」

隠岐の島産黒曜石の美しい神鏡と千木モチーフ台の組合せ。

神事で使用される「紙垂」をモチーフとした

ロゴマークを、漆黒の神鏡にレーザー刻印しました。

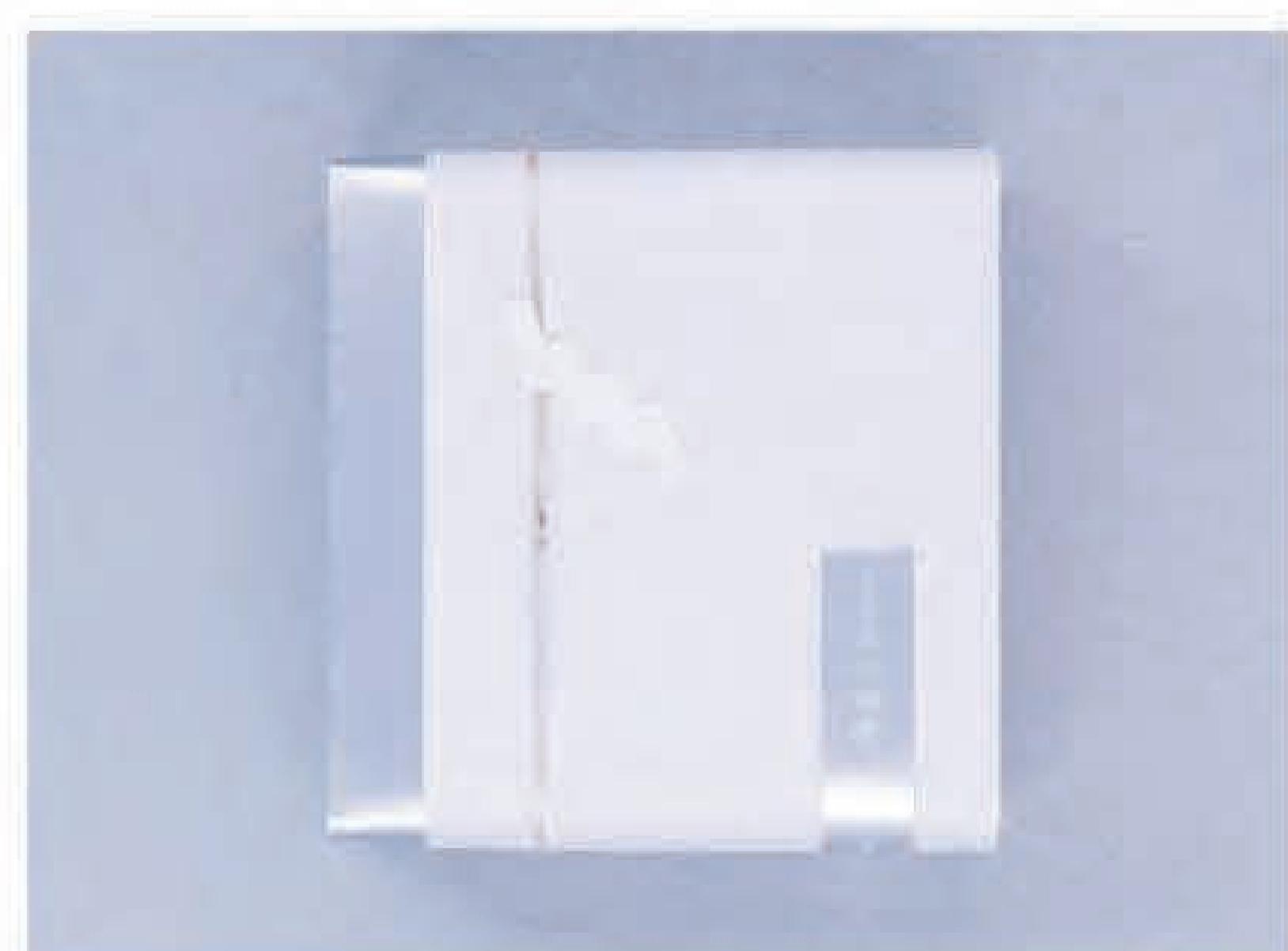
落ち着きある雰囲気を引き出し、神聖な空間を演出します。

熟練の職人により磨き上げられた漆黒の「鏡」は

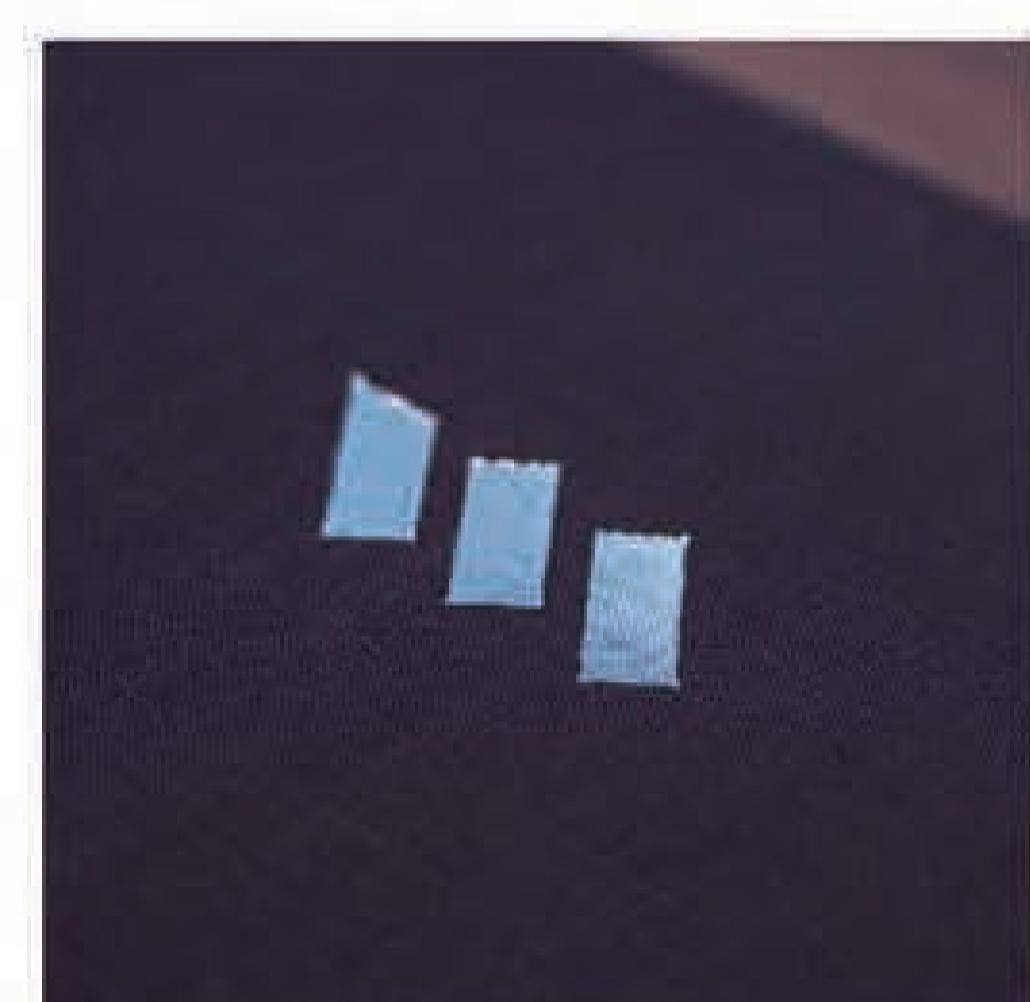
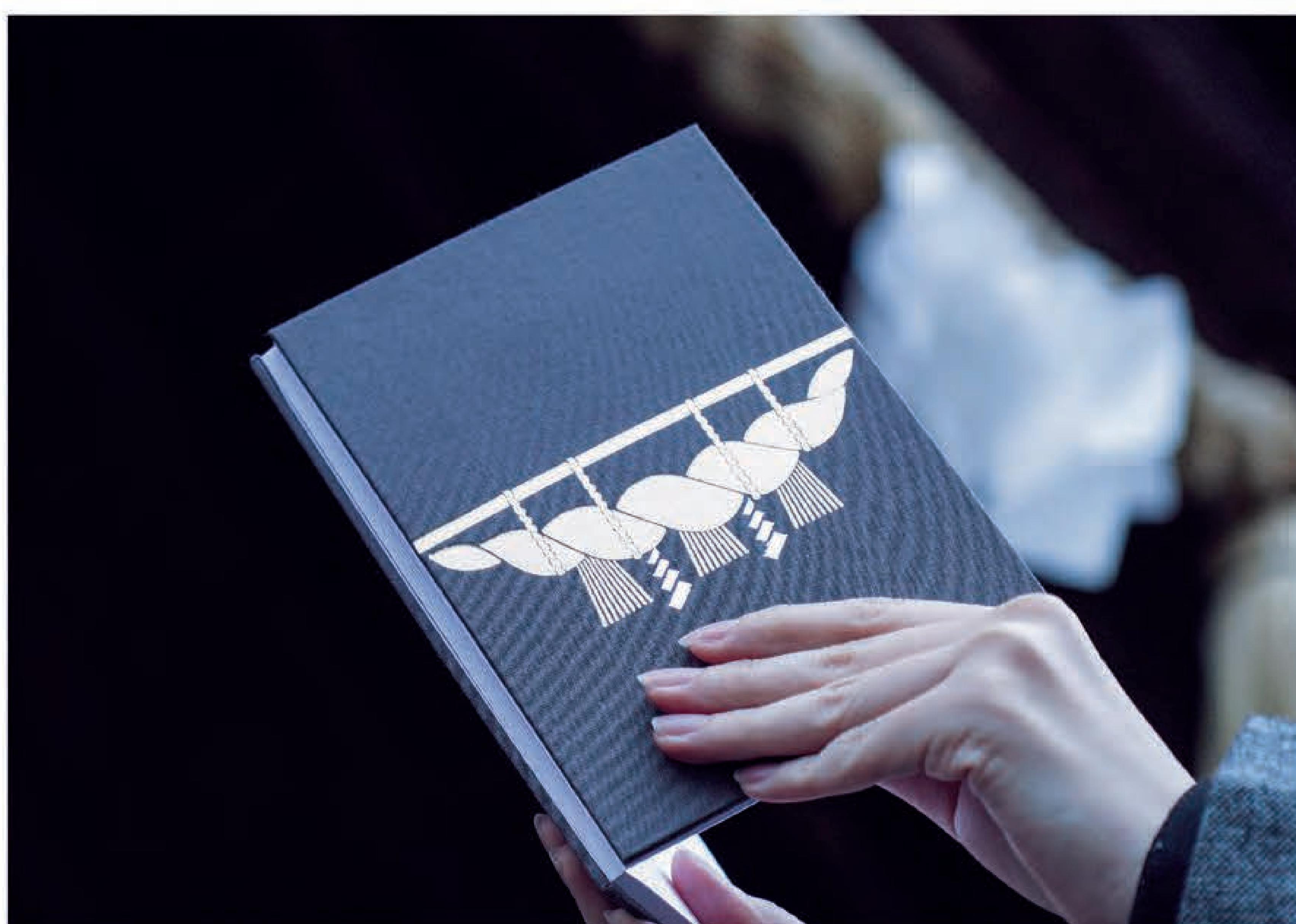
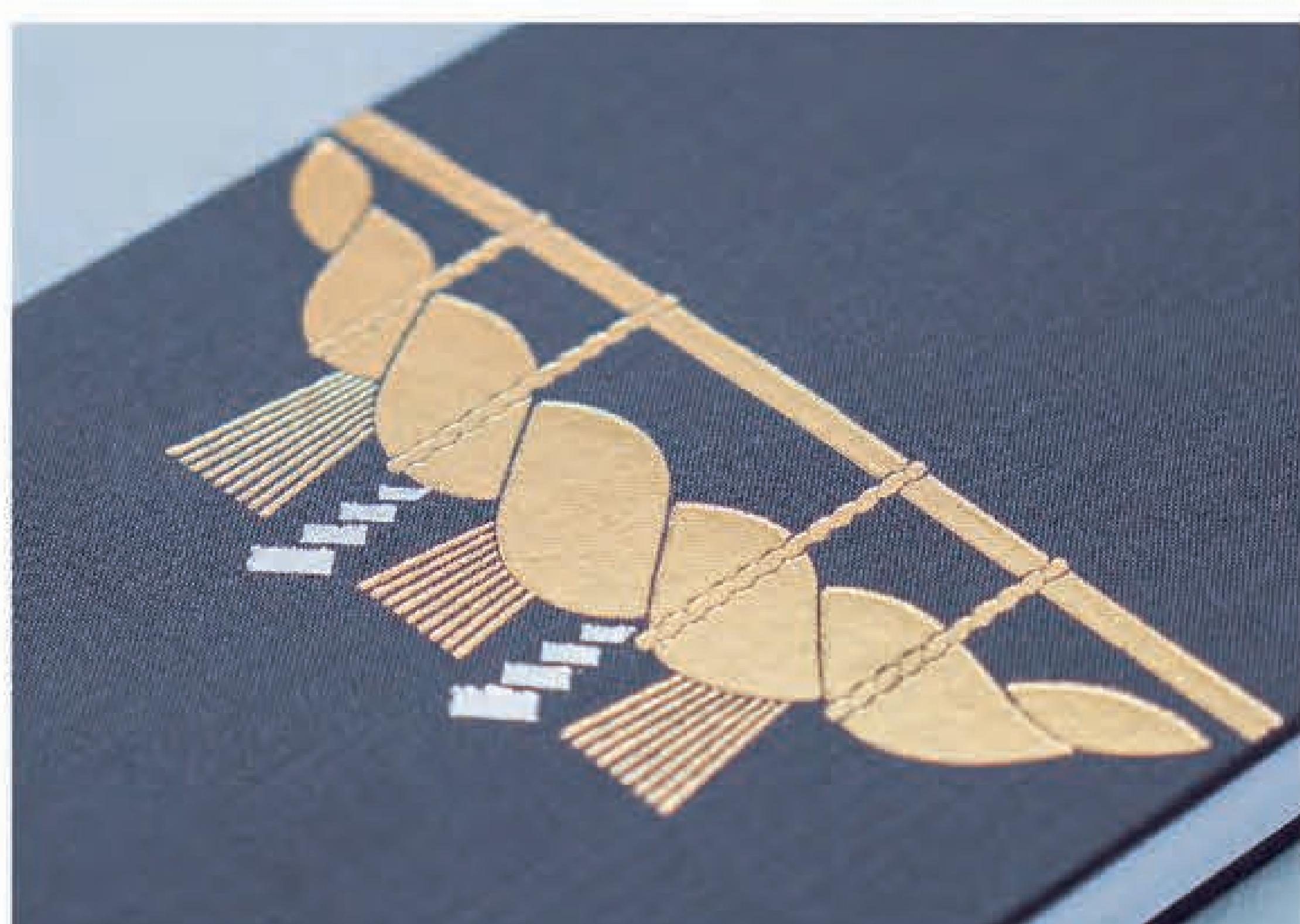
私たちをありのままを映し出します。

神棚に鎮座した神鏡と向き合うとき、

私たちは自分と向き合う貴重な時をいただくことができます。



パッケージ



「よすかの御朱印帳」

太古の昔から出雲国として栄えた地からの贈りもの。

出雲大社をはじめ古代神話に登場する神社が多く点在する出雲。

神社の象徴とも言える「注連縄」をモチーフとした

神々の国、出雲らしい御朱印帳です。

注連縄には神域にする他、厄や禍を祓う意味があります。

旅のお共に、お家のお守りに、何気ない生活の一部に。

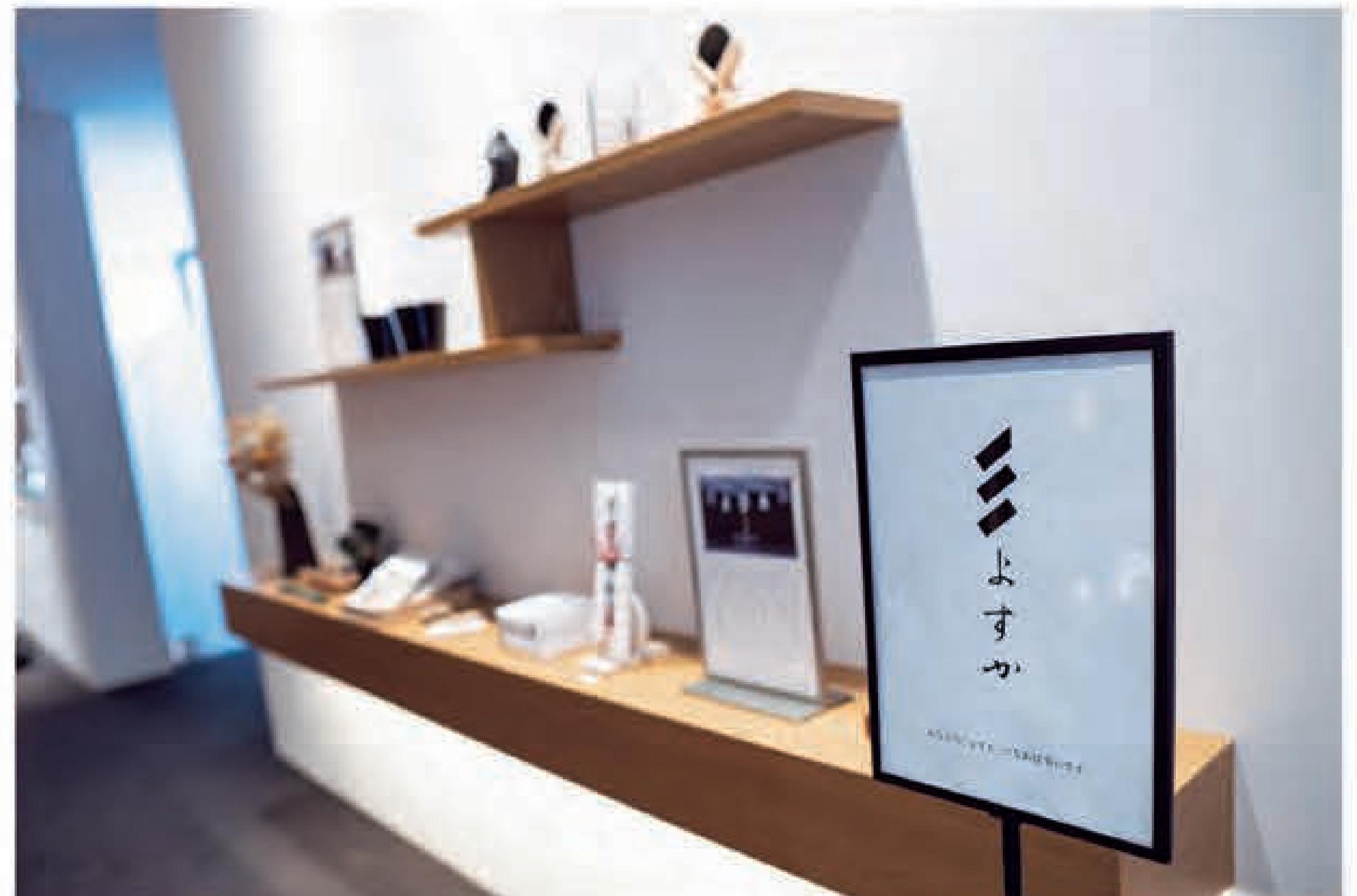
いつも心を払い清め日々過ごしていただきたいとの

思いが込められています。



パッケージ

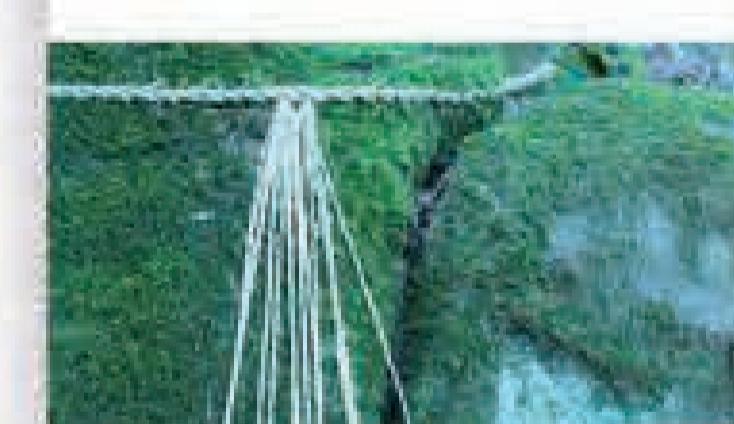
Pop-up Store



コンセプトカード



よすか「雪すみ」とは、
身からを奪って静けさにするさま。
もの、えこひつじなど。
約き寄せという意味の言葉です。



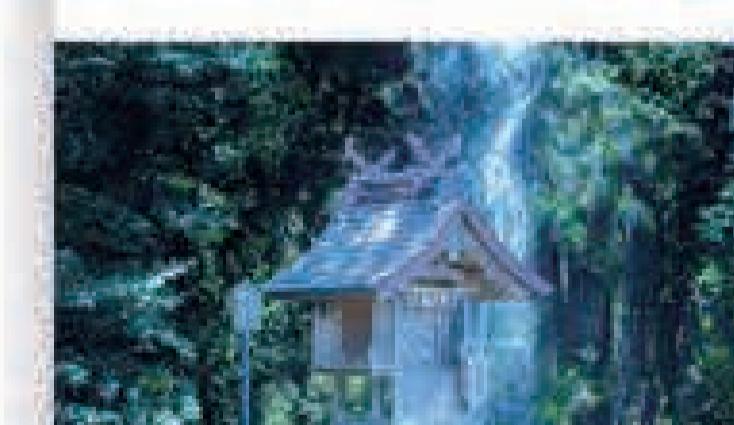
人や物がいる見えないテクスチャー。
人の感情や想いを感じ取める。
瓶や名札などの動きを止めて見つけたり。
お出ですることを機会としています。



神々の生きる流れを止める御守り。
それは他の神社に在らず、他のものではござる。
日々の営業ない暮らしのことで神を詠んでいく
あなたが「よすか」になれば幸いです。



カサノオノミコトが降天した地。
カサノハシタノミコトが詔められた此地の國。
悠久の時を越えて「ご縁」を結んでください。
通常の静けさよりも身近な感じでいたい——。
私たちはそれが想いを大事にします。



出雲は神々のふるえ。
御旅月次は人皆が心の神が宿す大蛇に薙され
「神威引小火はかり」を受れます。
カツを火と、カツコトをと
あらゆる「ご縁」が結ばれるときのも出雲。
神々のふるえより、貴様と夢想を持てていきます。



オンラインショップ



 On-line Store

